

長和町長久保の
松尾神社例大祭

4 基のみこしで活気

長和町長 久保の松尾神社(町文化財指定)の秋季例大祭がこのほど開かれた。同神社で大山獅子舞奉納



長久保の中心部で4基のみこしが落ち合った

など神事を行い、地区内を大人と子ども計4基のみこしが練った。獅子舞などの主催は大山獅子保存協賛会(金澤正廣会長)。みこしは旧中山道宿場の面影が残る堅町と横町の端から同時に出発し、約2時間かけて交差する旅館浜田屋の前まで

練り合流した。子どもみこし2基は町内の子どもたち、大人みこしは町などと連携の山村再生プロジェクトで実習に来た東京農業大学学生54人、丸子修学館高校農業科目選択生11人らが担いだ。沿道から水をかけられずぶぬれになりながら

も、子どもたちや学生は元気いっぱい掛け声で活気つけた。

フランスから丸子修学館高に夏休み明けから留学しているアカット・クレパンさん(17)は「訪日して初めて接した日本の伝統行事。母国との文化の違いを感じた。いろいろ学びたい」と話した。

金沢会長(67)は「前夜からの雨で実施判断が難しかったが、祭りの時間には晴れてよかった」と大役を果たし喜んでいった。

松尾神社は1557年、京都の松尾大社の末社として建立。地鎮祭で獅子舞を奉納したのが祭りの始まりという。